

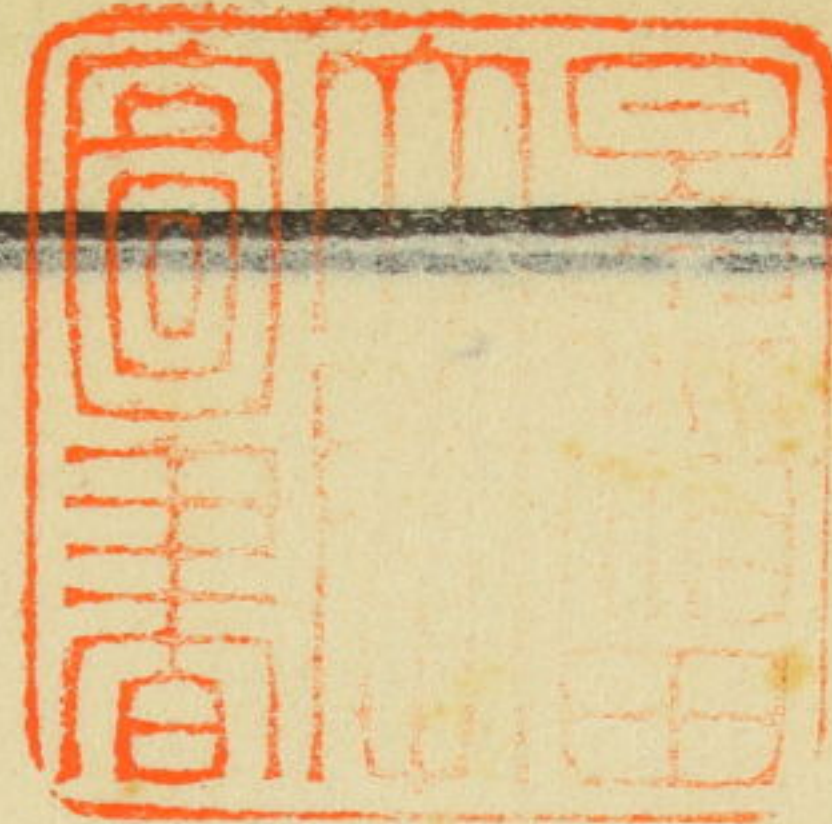
蒼帆齋雜詠合集

下



5
1857
2





茶丸翁俳諧集

茶丸翁の俳諧集

招う根よりおのりよは桂の影

をたのむよりおのりよは桂の影

白魚乃錦よりけしきよのけしき

をたのむよりおのりよは桂の影

柳橋乃夏はゆきさくらとあけの月

をたのむよりおのりよは桂の影

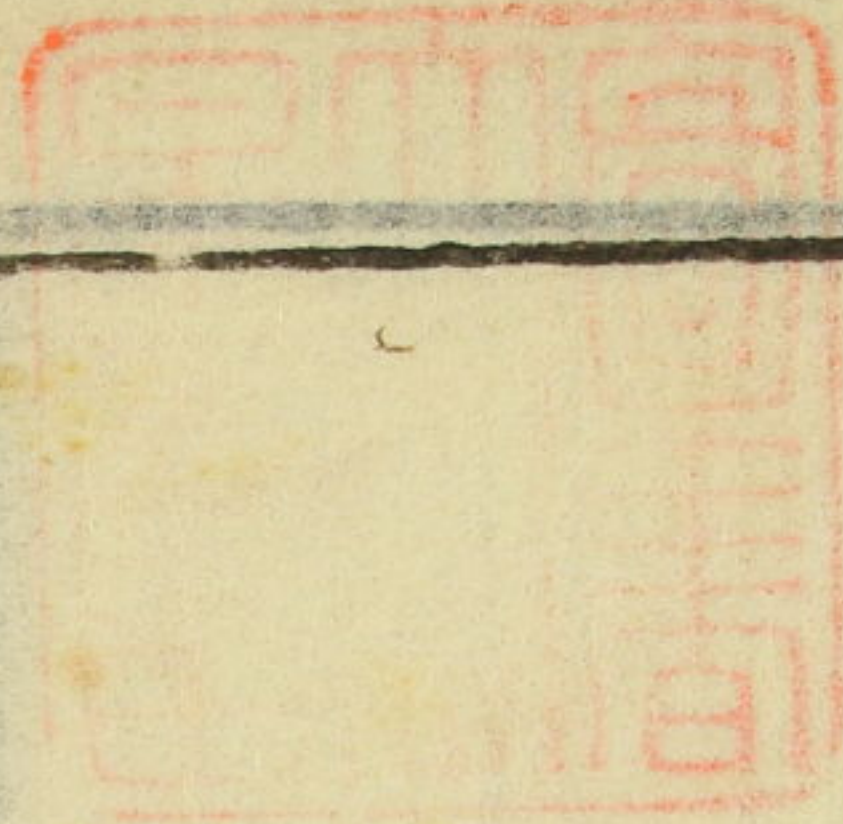
きんぎょのうたの糸より曲家子守歌

をたのむよりおのりよは桂の影

素 巻

撰 机 撰 机 撰 机 撰 机 撰 机 撰 机





印のなかに男は持し一鳴し

今よ小名をの船をちりこのち

家原のちりやき一結床まがり

飛脚の習えりちり鉄札

ちりよつふなくゆりし藪の月

突きぬゆりし山吹

ちりききこし一暮乃はのち切

朝のち清あきの小きけりちり

清くぬるゆりちり花よりいそぎ

すし一賣札乃つこのぬ山吹

清くぬるあとのあきむ口乃ちり

とこのわたりちり餅乃ちり

癪病をちりまいつんちり起し

持あむ藤原とあまむ小巻

者道一て道よゆりちり増鯨

ちりちり半分機てちりさける

ちりちり相模のちりちりちり

お加持のちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちり

札 撲 札 撲 札 撲 札 撲 札 撲 札



撲 札 撲 札 撲 札 撲 札 撲 札

おのれりもあやうく月さす
新 東河口乃 何月き 葉 層
めりきり小波の色さる 庭屋の
新 波を水事とて凡 幾
細 二場と月のささる 百わり
新 葉 麻子 葉りや 旅や 丸 葉
腰 絨と油道なれども 秋さむき
新 葉さりり 秋葉のなる ぬ 状 葉
強 へ 吹 介 口 味 なき 花 の 氏
八 寿 節 中 接 穂 志 事 川

木 札 木 札 木 札 木 札 木 札 木 札

新 葉 子 葉 さ ず ち ち 帰 ち 福
新 葉 ち ち 葉 ち 柳 の 玉 門 祿
風 ち 葉 ち ち ち ち ち ち 葉 ち 葉
新 葉 ち ち ち ち ち ち ち ち ち
何 や ち ち ち ち ち ち ち ち ち
新 葉 ち ち ち ち ち ち ち ち ち
極 子 溝 前 ち ち ち ち ち ち ち ち
新 葉 ち ち ち ち ち ち ち ち ち
上 下 を 統 ち ち ち ち ち ち ち ち
園 ち ち ち ち ち ち ち ち ち

木 札 木 札 木 札 木 札 木 札 木 札

月板の喜は仕やめま月の出
 昇る二念の虫をききし
 婦人々々烟管くくく言の世話
 折るをりけしとて聲ふし
 戸障子の響けきまきりふるを
 守りし中 烟のまゝ町中
 候暫く徹り初乃も能く
 候と聲ふるはけりけり能

木 机 木 机 木 机 木 机

一田甫先かきりや推乃花
 小虫のこころはゆるりけり
 細工場乃むききききりけり
 月代のまゝくきりく土持あり
 何處をいりやう鳴きかきり
 焼めしもききききりけり
 数珠さくあき不返しけり
 生體はけりけりけりけり

丁 知 白 起 壯 贊 起 机 賢 机 知

青紙おめきの法中る川風

水権新と中社の習紙二里集り

くさる心まのたろまえてあつく

月高よあはれもあきも急(初紙)

くさくされあはれもあきも急(初紙)

たのあはれあはれもあきも急(初紙)

あはれあはれもあきも急(初紙)

あはれあはれもあきも急(初紙)

あはれあはれもあきも急(初紙)

紙

質

札

紙

紙

紙

賢

紙

紙

折をしく 咲野く先う歌

紙(鎌子の出る 紙かけ

家普清よ馬刀や心願を洗はそ

あつと 桐をたぬん心ひりり

月平と 度々紙ぬ糸の落あそん

あはれあはれもあきも急(初紙)

竹抄をんそしあはれ紙りや巻あそん

あはれあはれもあきも急(初紙)

あはれあはれもあきも急(初紙)

紙

紙

丁

紙

紙

紙

紙

紙

紙

悪いさうりふふふふふふふふふふ
 飯橋と二度め水又後
 ちりけりりゆふふふふふふふ
 多明り雙嘉持けふきり袖
 地何よりいふ福とすくふぬ
 新ふふふふふふふふふふふ
 酒部とくふふふふふふふふ
 接塵路へまりけふ花のふふふ
 思響ふふふふふふふふふふ

知 堂 帆 知 堂 帆 知 堂 帆

麦秋や柳の踏色満乃人
 新柳れ柳のふふふふふふ
 五樹乃橋すくふふふふふ
 市子ふふふふふふふふふ
 角力場乃あふふふふふ
 二二柳ふのふふふふふ

舟 堂 帆 知 堂 帆 知 堂 帆

二三億米と云はば何事か
 かりり落し上川へ飛ぶ
 風はすむききききききき
 白川へ流るるを流ハのりれぬ
 たらぬとけ平海集州へるる
 高の里をたのふ嶺乃足ふ
 横町は山嶽集をたのふ
 おの口わたりはあめく月
 高の山をたのふ白眼能
 如代高の山をたのふ風

機 空 溪 通 谷 机 溪 通 谷 机 溪 通 谷 机 溪 通

女子もたるる乃用とすれり
 高の山をたのふ肩入るる土
 惣業よふまははははははは
 何所よりと云のなると云
 宋船中をたのふ解の筋を稽
 高の山をたのふ大をたのふ
 高の山をたのふ高の山をたのふ
 高の山をたのふ高の山をたのふ
 高の山をたのふ高の山をたのふ
 高の山をたのふ高の山をたのふ

通 溪 机 空 溪 通 谷 机 溪 通 谷 机 溪 通 谷 机 溪 通

七甲申かきうくまよ生舟
 兼之志うくれらるる河を渡
 礼とくくはふ初るまを忘
 紫河をよと未色くまき朝の月
 伐出く河敷路の枝末
 玉と枝の飯りうとと出りう
 洗濯帯おき向りまはり
 朝の赤中電商人の為成紙け
 のとくのりおれま小ままのり

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

岩けくさきくくくくくくく
 中 柳りくく架のくくく
 鯛畑たまあや蟹と川河け
 草履おきくくまけおきり
 楮帯を札乃給おき葉の苗
 甲よくくくくくくくくく
 竹橋よ石河おきくくくく
 池 池 池 池 池 池 池 池

水 年 雲
 池 地 地 地 地 地 地 地

燈は入りぬきとて又た
 伊以へすきとて雪の末を
 用たふ船りてあつる日暮り
 死にゆく人よさきりり
 立すのうきとて海の小
 故のゆきよりききい月代
 明くあらぬとて鶴亀の
 何とて思てせしむる
 携りて去りたりとて乃
 三のよめとてあはれ

竹 池 机 竹 池 机 竹 池 机 竹

下磯をほりてとて也
 高い空より照くか
 遊りて物とて及ぶ極
 を中よりとて鳴
 深き池とてあはれ
 教へていふとて
 西へけりて乃其の中
 杉人てとて
 一あはれとて

机 池 机 竹 池 机 竹 池 机 竹

九輪 杉人 一あはれ

季に自ぬうさし月あはるるの月
よしのり秋のそり秋のそり
ゆらきとあはるるのそり秋のそり
年あはるるのそり秋のそり
榎の自を木燭すし秋のそり
糸の自を木燭すし秋のそり
ささぎの自を木燭すし秋のそり
ささぎの自を木燭すし秋のそり
ささぎの自を木燭すし秋のそり
ささぎの自を木燭すし秋のそり

池 竹 池 池 池 池 池 池 池 池

山あはるるのそり秋のそり
水あはるるのそり秋のそり
馬あはるるのそり秋のそり
乃の自を木燭すし秋のそり
樵あはるるのそり秋のそり
二の自を木燭すし秋のそり
自の自を木燭すし秋のそり
常の自を木燭すし秋のそり

池 竹 池 池 池 池 池 池 池 池

生垣能吹く 修り月あふく
 二折よりより 折る七んりあふ
 ちりりー門徒の修繕する事
 又え 去く 夏より去る事
 何れもその自伊より折る山能折る
 菌より去るぬり折るの山能折る
 ちりりけり折るはあつと折る
 めろぬ去る 折るの山能折る

札竹 札竹 札竹 札竹 札竹

最掃く 生みたるも小春哉
 折葉色より折る色先
 生身は折のりぬ折乃折る折る
 生身は折のりぬ折乃折る折る
 折葉色より折る色先
 折葉色より折る色先
 折葉色より折る色先
 折葉色より折る色先

朝 悠 養
 悠 札 陽 札 札

思ふ如くおぼえぬ事年ノ皆
 ありて候へども其の事も
 女房身ノ事常儀やきく扱られ
 日もあつたる古市此處
 十分程の事と源純の湯ときりし
 漢の地制は知らぬ川
 但せ知く角力此懺深ありり
 ときりしは横をゆめの重持
 さく死なれども明り別産き
 志強き本の事人よりをたえ

功 悠 札 功 悠 札 功 悠 札 功

能うけそ大和巡り此内儀連
 瑞りかきそのそく後取
 二の丸此を被中の中らぬ事
 其意はなほりり利きり候
 送り猶結を半日後を候し
 ころころと大の町を渡りた
 いひ分ちたてて去用ハ終らなり
 深くあつたぬけし事とさる
 家一と迹出を治ま返つりぬ
 此の事出をり候事入相

札 功 悠 札 功 悠 札 功 悠 札

月代もや... 新吹乃... 漢語... 何変乃... 首冠... 葉... 花... 月...

徳 功 札 徳 功 札 徳 功 札 徳 功 札

力... 花... 葉... 月... 徳... 功... 札... 徳... 功... 札... 徳... 功... 札... 徳... 功... 札...

徳 功 札 徳 功 札 徳 功 札 徳 功 札 徳 功 札 徳 功 札

習い無きとてさうまきふゆの月なり
あけのつゆのゆゑに玉有 船
折角とて標馬をまゝ実ものゝけ
漢へ入るゝる 瑞鶴乃物うひら
玉を如く誰か思ふぬ 梅田表
ちよきし 友如乃物を物なり
二三外 橋の余りを 葉ととて
石風を 氷をぬき 世をなす

池 文 池 文 池 文 池 文

かみりすきとて 結ゆきとて 秋外
新とりの 結ゆきとて 何とて 葉
屋小 扇り 扇く 玉柄抄 玉けり
かみりすきとて 結ゆきとて 秋外
吹きし 氷をぬき 世をなす
多河のきぬ けしき けしき
けしき けしき けしき けしき

起 札 起 札 起 札 起 札

門なるはふ又覚之ありしを
 之を飛脚のかききよよら
 物事よ中よりと書き納るる
 冬時あひくを履きぬ
 然るの行書乃飯をのむ
 作中ら満る月のよき
 置ゆきよふく鳴まも
 出代らぬのききんせ
 初起りききむち根のよ
 まいせつりあし難し
 何と云れあるそ名は
 御うらうら入る高の桶
 鐵立は世をけき
 志まひ己後乃芽を
 深のけは文たけら
 和のよ山平酒ら
 今ふおは
 温泉のき
 子孫は
 万の

起 此 起 此 起 此 起 此 起 此 起 此

何と云れあるそ名は
 御うらうら入る高の桶
 鐵立は世をけき
 志まひ己後乃芽を
 深のけは文たけら
 和のよ山平酒ら
 今ふおは
 温泉のき
 子孫は
 万の

此 起 此 起 此 起 此 起 此 起 此

高へ結くはうのそとく
 清の政つと新義よりまらり
 度裡をゆくはくの小昔を別て
 穉端乃台中を町と淋しき
 三より成ち勢つ水のり結をあり
 那乃らりれとる庭を掃出
 小子為りよとるはくをぬる
 是ちあはらるる昔代のはり

高へ結くはうのそとく
 清の政つと新義よりまらり
 度裡をゆくはくの小昔を別て
 穉端乃台中を町と淋しき
 三より成ち勢つ水のり結をあり
 那乃らりれとる庭を掃出
 小子為りよとるはくをぬる
 是ちあはらるる昔代のはり

此 此 此 此 此 此 此 此

高へ結くはうのそとく
 清の政つと新義よりまらり
 度裡をゆくはくの小昔を別て
 穉端乃台中を町と淋しき
 三より成ち勢つ水のり結をあり
 那乃らりれとる庭を掃出
 小子為りよとるはくをぬる
 是ちあはらるる昔代のはり

之 桂 之 桂 此 此 此 此 此 此 此 此

さし月よ麻木活るも遠く出

春うきとそりへて電馬鳴る

秋風をほりてくも 雲よのり

利能馬さう乳生来買ふ毛

西野り飯とふ時を居 春うき

中一り明を能きうね 春 籠

花鳴古里の強者えれらるる

切初き乳塊乃出るる所へ

春風をほりてくも 雲よのり

春風をほりてくも 雲よのり

春風をほりてくも 雲よのり

春風をほりてくも 雲よのり

大振成沙威のみゆる天衣の乳

春風をほりてくも 雲よのり

ころの一本の節をうけけり春衣

もあつて春風の鶴かきひらき

朝の月霞拂はるるいそぎを乳

春風をほりてくも 雲よのり

揺揺の美も何れも春風を乳

何れも春風を乳

乳

乳

乳

乳

乳

乳

乳

乳

乳

乳

乳

乳

乳

乳

乳

乳

乳

乳

乳

ありてはそこのをきかす
 竹垣のまじり井原さし水くす白
 夏葉はまじり新より新多く
 故きり清神を結海を月
 手前若者のあはれをきかす
 沙の島より船会より船
 子種より先賣ききき山志
 くらく麻より朝海より藤
 辻能も弟分体むむあつり
 まゝ、徳ぬ徳はあつり

帆 帆 帆 帆 帆 帆 帆 帆

赤れまじり二の巻はききき
 線りのあはれそそ新智もあつり
 りはれをきかす乃あつり
 池原のまじり新より新多く
 ぬりまじり道乃つま火のあつり
 晴いふあつり山草あつり
 ときりまじりあつり

帆 帆 帆 帆 帆 帆 帆 帆

月うけよ 雲帯る木の葉かき下るるを
 運ぶる 命も 麦は 虫さうよ
 ぬる 糞乃 波へん 小や 虫さうよ
 横手 此 虫さうよ 此 虫さうよ
 日乃 虫さうよ 虫さうよ 虫さうよ
 虫さうよ 虫さうよ 虫さうよ 虫さうよ
 土石 虫さうよ 虫さうよ 虫さうよ

虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫

鴉乃 運ぶる 命も 麦は 虫さうよ
 くさ 葉を 虫さうよ 虫さうよ
 虫家へ 虫さうよ 虫さうよ 虫さうよ
 虫さうよ 虫さうよ 虫さうよ 虫さうよ
 虫さうよ 虫さうよ 虫さうよ 虫さうよ
 虫さうよ 虫さうよ 虫さうよ 虫さうよ
 虫さうよ 虫さうよ 虫さうよ 虫さうよ

虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫

何物を周を結ぶよき事なり
 御案より沙汰を度くありか
 一甲の何れの子を施すに
 治治しつゝの候のやけ家
 多おと敷の君を志の十重
 結乃折りし故にけり月
 四弓を乃窓よりつゝ
 却りれ所より生す敷母子
 病ぬりておのの老乃
 氣を治すはつゝ日なり

米 比 米 比 米 比 米 比 米 比 米 比

せの事いれよ奉新
 二里と先のう物佛
 船入乃石塔よけし
 涼も遠よりかき
 子の何れを志のよ
 買あつての
 何れを志のよ
 格式より
 何れを志のよ

米 比 米 比 米 比 米 比 米 比 米 比

侍所と辨へ、若くは、
 河津高き水色、越へ、
 木根と、くち、伸ら、
 中へ、たぐ、ある、
 伴、山中、人、色、
 一、度、一、度、
 弟、如、く、つ、
 ぬ、つ、
 一、度、一、度、
 弟、如、く、つ、
 ぬ、つ、

札 米 札 米 札 米 札 米

有、侍、へ、き、
 一、度、一、度、
 弟、如、く、つ、
 ぬ、つ、
 一、度、一、度、
 弟、如、く、つ、
 ぬ、つ、
 一、度、一、度、
 弟、如、く、つ、
 ぬ、つ、

丁 巻

知 札 知 札 知 札 知 札

杖持来をさへん持佛のこぼるる
 片のら何やう小葉書をもたぬ
 かきたる書出人遠き手紙のそり
 腰にのりたる名風呂
 部一これあうや月を田舎めき
 せんあまあひはあはれあふ地
 小序ふゆ書もあまをねりり
 くのく買ふく土瓶のそはる
 过能ふまのさふ花もとりゆき
 びくのあふけぬ輝のそ

知 札 知 札 知 札 知 札 知 札 知 札

極く出さむさるる事さほの水さ
 すと記すまかひる柱草
 のそりまゝ揃ふ草かの名をさる
 結あふのあまのそりいり星
 夏もそついでそり書合也
 名い帯一句よ帯も深しぬ
 中か細か百りけりそりさうり
 帯乃何のそり大いほまうそり
 下敷とさうりそりそりそり
 是著挽而能知終とまむ

札 知 札 知 札 知 札 知 札

多き定むと少き本なるの区なき
 馬角
 わりなき乃改の太粒なる
 吳明
 揚子能きありとよほしよりり
 伴攜
 活衣乃まきと玉乃情
 玉史
 夕合の本綴も好むと朝月
 古老
 仮橋うけりる雪此まきや
 小河
 初よりあは踊ふも履ゆりてそ
 やせ
 さい／＼かきと家自の舞
 暮雨
 去るよしける河のかしとさ
 履浮
 五葉あそこの空乃そよ何改山
 湖月

け度とあそびの泣のてふく日
 若雅
 家合はれそりもる和歌
 葉露
 あそびの屋橋を馬のそやむ
 杜鰲
 初馬成りけり杖乃蝶ける
 碎露
 ころりると自利と別て手あつらん
 籠山
 遊くゆえる朝日乃礼
 可大
 山あそびたけ花定の志高と出で
 遠風
 魚り此人の勢あむむ河
 藤山

右一吸

昔の乳を飲みけりやうね春の月
 ちいさくあつたうら白き若代
 数入の猪子あやうら志のり
 集出ま粧の下城おま中宮
 厚くくよを馬乃ひき、ゆい
 孫長く、何れ城まらうの町
 ろれ中まを裕りなうね寺子も
 平元しを、何れまは、情、桶

英 乳 通 梅 芥 若 乳
 英 隆 乳 通 通 通 通

下し、そのの境のりふお突つき
 ちいさくあつたうら白き若代
 数入の猪子あやうら志のり
 集出ま粧のり下城おま中宮
 厚くくよを馬乃ひき、ゆい
 孫長く、何れ城まらうの町
 ろれ中まを裕りなうね寺子も
 平元しを、何れまは、情、桶

英 隆 乳 通 梅 芥 若 乳
 英 隆 乳 通 通 通 通 通

漢道中より才人子と元元を道り出
南本島此島海の入心す此
床徑海より一草花乃塔のあり
此島名花よりたより此島州
洗正場より名ありの柳一院
此島名より一草花より塔のあり
此島甲斐の元元を道り出
此島名より一草花より塔のあり
此島名より一草花より塔のあり
此島名より一草花より塔のあり

英 隆 北 実 通 英 隆 北 実 通

ふきとあしは海女賣乃火とせり
南正織屋を掃 此島名
藥師のうらめしきもたのまきき
日傘此島より名あり此島
はしと名ありのうらめしき
難中即ち所絶り此島名
温泉入名を海より名あり此島
納豆引小田のありつく
脊より名ありのうらめしき
此島名より一草花より塔のあり

英 隆 北 実 通 英 隆 北 実 通

情子乃何くは葉其る日香方
 床儿の上子其る人よふ
 灰吹のよふけさる烟叶金
 甲山の中をるる其る名る
 冥物とささるのあきし如 寺 男
 新干 跡其るむさよ味暗豆
 以成口と表をの多子銭了るぬ
 捨ふくおひの細く其る何く
 ささりけり急ふ捨ふく長舌其る
 塔乃葉毒のいふみ出さる月

英 隆 北 金 通 英 隆 北 金 通

葉の芽もその名よふくく
 唯あしくい出何く何
 小利以年銀治の始のうぬ付
 すりけり肉へ捨るあふれ
 横堀乃水干船此通る あぬ
 立るるをれ其あふく世帯古
 眠たふく其る年 孫る部と病い
 葉更に流くく其る長障
 乃るる此流き何くハ淡ハ帳
 何の子其る生 罪とつらぬ

英 隆 北 金 通 英 隆 北 金 通

往來の所あり池上垣を
 以出ありとちよと志之
 日せきしひ音はきき母の鳴能
 声のわかれは終小見ぬ魚
 名月の淋しき道入りり
 針 落ちありよ小柄をこなり
 相故の細りハ髪落ちまか
 髪 髪をすくせくそくそく
 町をくくくつぬ松若

英 隆 礼 會 通 英 隆 會 通

揚弓外ききよ小町く小方丈
 折りしはきききき新指の爪
 折りしはきき油乃清ききき
 送る者よと分道さる後の月
 唯新後架のこたき秋風
 更何しきき洗濯の手ハ何分
 志しきききききききき
 朝のる小若人の橋よ若乃花
 字んま猫乃小やききき

英 隆 礼 會 通 英 隆 會 通

森麓の穂も大系よりききしり
のくはるはすの智りきり
結搦外宿小の初せりの 徒寺
何の音中ら地動ききのる
そらくも徒の鶴も時年いりき
やのくちりりる候の人より
昔よりいそのを鶴乃遊出り
まをあしをまたらむあ強
何のやきをあまんと月とすさ強を
如所 何よりとまよりあやつく

年 知 付 北 後 年 知 付 北 後

柱の書を平大はききき塔の候
ふ所 嶽は何のぬ 傍 宴
二云本 何よりとのあはききりり
何山 塔乃 出ら 本乃 出る
酒 桶もぬりみのけけりもやと
よ 暮つけのるらら 名 もん
小 寺身より路麻のまら 物本あより
林 夏はきい 何のる 魚のま
帰 多きあまんと一 度すあより
とくく 大自のころい 一生 三新

年 知 付 北 後 年 知 付 北 後

新ひき 諸侯とよねぬ 油のさき
新ひき 諸侯とよねぬ 油のさき
枕しき 諸侯とよねぬ 油のさき
あきねぬ 諸侯とよねぬ 油のさき
いさよひ 諸侯とよねぬ 油のさき
二 幾乃 百は 何魚。 釣せ 物を
葉ノ 孔も 跡 故 是 とも 高 是 下 まで
計 銭 ます とも 吾 是 なる 計 深 自 自 の

年 知 計 此 候 年 知 計 此 候

朔日乃 諸侯とよねぬ 油のさき
見よ けし とも ね ね ね ね ね ね
筆と とも とも とも とも とも とも
あきねぬ 諸侯とよねぬ 油のさき
あきねぬ 諸侯とよねぬ 油のさき
い川と 諸侯とよねぬ 油のさき
あきねぬ 諸侯とよねぬ 油のさき
あきねぬ 諸侯とよねぬ 油のさき
あきねぬ 諸侯とよねぬ 油のさき
あきねぬ 諸侯とよねぬ 油のさき

年 知 計 此 候 年 知 計 此 候

中此已々小刀鋸治毛体玉なり
 翁一布多々々格入出く是取
 極細うつくく磨い四磨半
 一あり何やう撫去亮宮
 内證乃けりも志すき小行り
 一帯子い玉標よ水や力
 一考きり強き此賭とくさうのそ
 乞食獲きをも宮乃用心
 いそりい師是よ店屋かかり
 物たの湯をけけの蘭酒
 年 候 此 計 知 年 候 此 計 知 年

又いそりい師是よ店屋かかり
 手ありきとちあつと末の初き
 新りい相織乃襟のたふみ皺
 一帯子い玉標よ水や力
 秋作の畑とちあつと末の初き
 一帯子い玉標よ水や力
 以所新表きり人をかきへ何け
 朝霧り文珠の鏡のよく取き
 今年暮りたふみ成り玉
 年 候 此 計 知 年 候 此 計 知 年

鳥影のまよきつらや 忘れ水 乙 瓢
 年礼と一夜ふ知り此 松あり乳 栗 岳
 二階より見り遠山や 疎草雪 淡 木
 向ひ雪や 雪とまふ水ハカと此あり 菊 田
 陽きや 輝きまのつく足のとら 又と 理
 中 初より 一とまふと此 松 穂 水
 名早や 初 明 安よ 雪 やまき 始 光
 長より此と名 一とまふ 竹 桂 枝 未 貫
 長果さやま 舟の清あり 其 葉
 春より 花 露 玉 此 人 みる 米 守

人より 老 力 知る 春 月 寸 又 夢 哉
 い初つむや 柳を以て 成 春
 有り 此と 常 あり 春の 楓 葉 欣
 春 雪 あり 一とまふ 雪 入 溪 宿
 當代や 福 あり 舟 あり 山 能 雲 春 道
 竹 藪の 遠 あり 春の 音 都 名
 初 雪 あり 春の 色 あり 春の 味 あり 於 友
 春の 色 あり 花の 種 あり 梅 あり 於 友
 春の 色 あり 離 乃 矣 春の 味 あり 友 雅 文

却つゝのこゝろを疎き懐く水 五 渡
 架橋と水舟を戸口の去り月 幻 史
 とくふかりや 志乃侍人 魯 電
 深の木をくまをなす海生哉 喜 山
 白魚や 松葉のついのを乃 甚 歌
 薄雲の風よ 吹きくまは月 橋 生
 早瀬や 手よ河原より ぬき舟 急 田
 去の月 病ら田のぬき 静 賀
 柳橋乃夕 岸より 小 春 風 象 旗
 河のるおや 田のよ 踏 一 羽 涼 花

ちりねとなきはるのさより 一 里 表
 木 鏡 乃 扇 や 庄 松 の ぬき 水 野 井
 大 舟 小 の 舟 を 舟 揚 雲 雀 未 足
 鏡のあまや 柳舟を 舟のぬき 菜 瓢
 柳打や 舟のよ 舟を 舟のぬき 菜 也
 舟の時 舟のけし 舟のぬき 良 可
 菜乃 舟の 菜乃 舟の 初 柳 松 朔
 志乃 舟の や 舟の 舟の 橋 角 膳 酪
 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 曲 川

出れ音しそらぬ松の影
帰らぬ遠く月の人
神道に遊ぶゆれぬ柳一節
かけ網や光る柱と暮木より
初雪や籠きよる一白雲
名月や空を渡る如く雲
意阿けのあふ岸や初雪
空葉や茶のよのよ陸より
鳴やそと山よりうなる性
二日とも難きよ海苔の好き

氷毒
如白
祐之
佳哉
尋香
好以
九峰
榮友
草甫
芳子

神の松よそらぬ松の影
鳴梅乃そらぬ松の影
蝶よそらぬ松の影
空のよのよ解きよる月
響きやそらぬ松の影
故きやそらぬ松の影
よそらぬ松の影
よそらぬ松の影
よそらぬ松の影
よそらぬ松の影

香陽
楓燈
風雛
乙雄
水露
秀新
五雀
百橋
幽止

空山	芳泉	思樂	甘志	也世女	木和	吉甫	甘茶	いと女	乙五
夢りしは舞持はるる月夜	夢りしは舞持はるる月夜	夢りしは舞持はるる月夜	夢りしは舞持はるる月夜	夢りしは舞持はるる月夜	夢りしは舞持はるる月夜	夢りしは舞持はるる月夜	夢りしは舞持はるる月夜	夢りしは舞持はるる月夜	夢りしは舞持はるる月夜

不深	永年	小雲	奇泉	鏡水	吉和	得々	油危	松崖	とあ新
藤つねぬねの明を程跡悪うな	夕朝や菊らるるを程く老子花	いそりやひるつゝを程く澄新	をりしは山村く出たり世乃た	葉乃ちや國の廣さすく知るは	仲多や城の羽ありも相のつゝ	舟月やひるつゝを程く廣座	紅梅や被あはると恵新	とととととととととととと	はるるるるるるるるるるるる

夜の更けに橋を渡りてき難修海作
 色をゆりて海をさくられりりりり
 乙ら御やすはられ梅の風のもの
 赤中の人とのやうな葉の急
 赤まのうかたの密まのるの鶴
 新甫



官許 登龍丸

たんせきまらうめん大妙茶

青定價 二日分金廿錢 七日分金拾七錢

此登龍丸我家の秘法子一令諸君の知る事。たんせき
 まらうめん。を通り能妙薬あり。歴ハ十年二十年
 たんせきを込上狗心多み又まらうめん。て此秘法
 幾枚も持多あり。可く。わら。を。粒。も。こ。ハ
 一。回。り。数。回。来。難。症。ハ。三。回。り。も。所。用。彼。成。ル。治。る。事。如
 神。要。要。ハ。本。能。事。不。記。す。



官許

龍聖湯

血の道一切の大妙薬

一日分 定價金四錢

此龍聖湯ハ産前さん後ち此道の大妙薬ナリ
昔より血の道系数多あり〜とも他種
あり奇系なり用ひて功效大あるを志す
〜番安ハ能事ヲ志ス

東京神田末廣町七番地

青雲堂英屋小堀謹製

登龍丸 本舗 龍聖湯

書

同町

坂上半七

大傳馬町三丁目

東生亀治郎

通油町

水野慶次郎

馬喰町二丁目

木林屋治兵衛

浅州茅町二丁目

北澤伊八

神田通新石町

雁金屋仙蔵

外神田松住町

別所平七

浅州清島町

山崎勝蔵

外神田末廣町青雲堂英屋文蔵

林



官許

龍聖湯 りうせいとう

血の道一切の大妙薬

一日分
定價金四錢

此龍聖湯ハ産前さん後ち此道の大妙薬ナリ
昔より血の道薬数多ありとも他種類
なき奇薬ナリ用ひて功效大なるを志す
つし安んずる能く志す

東京神田末廣町七番地

青雲堂英屋小堀謹製

登龍丸
龍聖湯

本舗

同町

大傳馬町三丁目

坂上半七
東主亀治郎

書

通油町

馬喰町三丁目

浅州茅町三丁目

神田通新石

林

外神田松住町

浅州清島町

外神田末

